

死亡診断書（死体検案書）

この死亡診断書(死体検案書)は、我が国の死因統計作成の資料としても用いられます。かい書で、できるだけ詳しく書いてください。

記入の注意

氏名	1 男 2 女	生年月日	明治 昭和 大正 平成 (生まれてから30日以内で死亡したときは生まれた日も書ってください)	年 月 日 午前 午後 時 分	
	死亡したとき 平成 年 月 日 午前・午後 時 分				
(12) 死亡したところ	死亡したところの種別 1 病院 2 診療所 3 介護老人保健施設 4 助産所 5 老人ホーム 6 自宅 7 その他				
(13) 及びその種別	死亡したところ 番 地 番 号				
(14) 死亡の原因	(ア) 直接死因		発病(発症) 又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例：1年3か月、5時間20分)	傷病名等は、日本語で書いてください。 I欄では、各傷病について発病の型(例：急性)、病因(例：病原体名)、部位(例：胃噴門部がん)、性状(例：病理組織型)等もできるだけ書いてください。 妊娠中の死亡の場合は「妊娠満何週」、また、分娩中の死亡の場合は「妊娠満何週の分娩中」と書いてください。 産後42日未満の死亡の場合は「妊娠満何週産後満何日」と書いてください。	
	(イ) (ア)の原因				
	(ウ) (イ)の原因				
	(エ) (ウ)の原因				
	II 直接には死因に関係しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
手術	1 無 2 有 { 部位及び主要所見 }		手術年月日 平成 昭和 年 月 日	←I欄及びII欄に関係した手術について、術式又はその診断名と関連のある所見等を書いてください。紹介状や伝聞等による情報についてもカッコを付して書いてください。	
	解剖				1 無 2 有 { 主要所見 }
(15) 死因の種類	1 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焰による傷害 } 6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 } 12 不詳の死				
(16) 外因死の追加事項 ◆伝聞又は推定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分		傷害が発生したところ	都道府市区町村
	傷害が発生したところの種別	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()		市 郡 町 村	←「1住居」とは、住宅、庭等をいい、老人ホーム等の居住施設は含まれません。 傷害がどういふ状況で起こったかを具体的に書いてください
	手段及び状況				
(17) 生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	単胎・多胎の別		妊娠週数	
	グラム	1 単胎 2 多胎 (子中第 子)		満 週	
(18) その他特に付言すべきことから	妊娠・分娩時における母体の病態又は異状		母の生年月日		前回までの妊娠の結果
	1 無 2 有 [3 不詳]		昭和 平成 年 月 日		出生児 人胎 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)
(19) 上記の通り診断(検案)する (病院、診療所若しくは老人保健施設等の名称及び所在地又は医師の住所) (氏名) 医師	診断(検案)年月日		平成 年 月 日		
	本診断書(検案書)発行年月日		平成 年 月 日 番地 番 号		